

付、修理等を請負へるために、小泉氏は各工場に出入して夫等の仕事に従事してゐたのであるが、大正十年九月頃より竊に労働組合の組織に着手してゐた様である。偶々第十五工場水壓品の据付に従事中右腕に負傷せしめた山崎鐵工所は彼を解雇したので、會社は氣の毒に思ひ附屬病院に收容して治療せしめ、日給三十日分に充當する見舞金を贈つたのである。爾來引續き彼は熱心に組合組織に奔走し、遂に十一月に至り六日八名、同八月二十二名の總同盟加盟者を得たのである。かの岡野實、小岩井相助、堀越梅男の諸氏は此時加盟したものである。會社當事者は大に驚き夫々關係當事者と協議して是が對策を練つたのであるが、何等具體的名案なく徒に袖手傍觀するのみであつたので、組合側の活動につれて追つて入會者増加し、同月末には凡そ百二十名の正式加入者を見たのである。十二月に至り益々入會者増加し十二月十五日には組合員約二五〇名を算するに至つたので、愈々總同盟野田支部を創立することに成り、同日大阪屋旅館に支部を置くと共に總同盟本部より鈴木會長を始め松岡、田口、望月の諸氏來援して愛趣園内には是が發會式を擧げた、來會する者第十五工場を中心として第十、十三、十四、白木及其他の各工場より凡そ四〇〇名の多數に上つたのである。

名稱 總同盟野田支部

創立日 大正十年十二月十五日

創立者 小泉七造氏

當時の支部長 岡野實氏

組合員數 約二五〇名

二、總同盟と所謂御用組合との對立—大正十一年二月

爾來組合側の運動は頗る猛烈を極め勸誘大に努めたる結果、加盟者簇出して一大勢力を成した。然るに一方比較的同組合を厭ふ職工等相協議し、未加盟職工を以て團體を作らんとするの議ましまり、其旨會社に申出でしに、會社も之に應じて其團體を助成せんことを約し、其結果同年十二月下旬第三工場萬友會、第四工場調和會、第八工場交調會、第九工場親和會等の反總同盟團體の組織成り、總同盟に對抗して會社後援の下に大に氣勢を擧げ、翌十一年二月には組合側の擴張運動あるにも拘はらず半數の工場に勢力を占むるに至つた(總同盟八工場約五〇〇名)。於茲二月二十四日愛趣園境内に於て御用團體の發會式を擧行し意氣頓に擧つた。

三、御用組合の衰滅と總同盟の隆盛—大正十一年六月

斯くして一時は御用組合の勢旭日の觀ありしが、爾來會社側の組合幹部に對する指導の拙劣なりしと總同盟の熱心なる組合擴張運動により漸次御用組合は蝕蝕され、同年六月末には全く消滅の悲境に陥り全職工は殆ど總同盟に加盟するに至つた。其間組合側に於ては組合員の増加と共にあらゆる手段を盡して會社側の缺陷を突き、各種各様の要求條件を提出して其大部分を貫徹せしめたのである。

四、桶工對桶工棟梁問題—大正十一年七月十五日

組合の威力益々強く會社は徒に彼等の爲すがまゝに委しおる状態なりしが、兼ねて問題となりおりました桶工對棟梁間に於ける勿論問題につき、十一年七月十五日各工場勤務の桶工一七〇名は一勢に罷業を決行し紛擾状態に陥るつたが、二十一日に到り野田警察署員大に其間を斡旋して翌二十二日圓滿解決を見たが、組合側の要求は終に貫徹しなかつた。

五、殺人事件—大正十一年七月二十三日